

既存の公共交通の充実・強化による旅行者の利便性確保
～地域住民と旅行者の双方の利便性向上に資する様々な取り組み～

POINT

- ・ 市営バスと民営バスの連携に自治体が積極的に関与。公共交通を活かしたまちづくりの推進が、旅行者の利便性向上にも寄与。
- ・ 市民利用の需要創出と旅行者の利便性向上の両方をにらんだ路線バスパックで新規需要を創出
- ・ 全国でも数少ない定額観光タクシーチケットの導入で、周辺観光を活性化

<八戸市の概況>

八戸市は、人口 23 万人で、青森県南東部に位置する県内第二の都市である。日本有数の水揚げを誇る水産都市であるとともに、北日本随一の工業都市である。また、県内最多の商圏人口を擁し、岩手県北も含めた広域商業圏の中心地である。

交通の観点からは、東北新幹線や東北縦貫自動車道八戸線等の高速道路網、八戸港(重要港湾)、三沢空港、本州と北海道を結ぶフェリー等、北東北における陸・海・空の交通結節点となっている。また、市内には5つの高速道路インターチェンジも整備されている。

市内の交通の特徴としては、八戸駅(新幹線駅)と中心市街地が隣接しておらず、八戸駅と中心市街地間で約 6km の距離があるとともに、市内の交通は八戸駅ではなく中心市街地から放射状にバス路線が伸びている。

八戸への観光入込客数は、新幹線開業以降、約 300 万人から約 700 万人へと大きく増加している。その旅行者の内訳は、ビジネスの割合が高く、また八戸周辺での交通手段としては、レンタカーが利用される割合が高くなっている。

八戸市では、観光振興の取り組みとして、「夜」と「朝」の強化に力を入れている。これに伴い、ホテルの稼働率も上がってきている(各宿泊施設から八戸観光コンベンション協会に宿泊実績データが提供されるように関係構築も進められている)。また、体験型コンテンツの開発にも注力しており、着地型の商品開発が八戸市及び周辺地域で進められているが、観光施設が広域に分散する一方、宿泊施設は八戸市内中心部に偏在しているという課題も存在している。

<取組の概要>

□公共交通活性化と観光客の利便性向上

八戸市では、公共交通事業者等との連携しつつ、「八戸市公共交通再生プラン（H19.3 策定）」、「八戸市地域公共交通総合連携計画（第一次 H21.3 策定、第二次 H26.3 策定）」、「八戸市地域公共交通網形成計画（H28.3 策定）」を策定し、様々な取り組みを進めている。

まず、八戸市が中心となってまとめた「八戸市公共交通再生プラン」のアクションプランの一つとして、八戸の玄関口である八戸駅と中心市街地を結ぶ路線について、これまでは新幹線の到着時間に合わせて各事業者が独自で系統・ダイヤを編成してバス運行していたが、平成 20 年には、交通事業者間（市営バス・南部バス）で連携して、運行ダイヤの一体的設定・調整を行った。

Before (H19)	After (H20)
<ul style="list-style-type: none">・各事業者がバラバラに系統・ダイヤを編成・各日計 228 便の運行	<ul style="list-style-type: none">・2 事業者 2 経路のダイヤを平準化（10 分間隔）・平日計 182 便（▲46 便）に

この事業者目線による運行から、利用者目線による 10 分間隔での運行への変更により、使い勝手の良いダイヤに変更されたことにより利用率も向上した。

市内で一番の主要路線において事業者、利用者（住民及び旅行者）の双方にとっての改善が図られたことを受け、平成 21 年度以降、以下のような取り組みが順次行われた

- ・ 中心街とその他の市内各方面を結ぶ市内幹線軸路線における、事業者共同による高頻度・等間隔運行の実施
- ・ 共同での情報発信（共通バスマップや共通時刻表の整備）や共通定期券の導入
- ・ バス停ごとに行き先が異なり、また、同じバス停でも事業者により名称が異なるなどしていた中心街のバス乗り場の統一（八戸中心街ターミナル●番のりばに統一）
- ・ 共通の路線ナンバリングとバスルートカラーの設定並びにそれに準じた分かりやすいバス停の整備

これらの取り組みは、日常利用者だけでなく、初めて訪問する旅行者の利便性向上に特に貢献している。特に、複数の公共交通事業者が乗り入れる地域では、旅行者にとっては目的地に行くために、どの事業者のどの路線に乗りすればよいのか非常に分かりにくい。案内の統一化だけにとどまらない、事業者間の連携による高頻度・等間隔の設定、バス停の統一などの取り組みは、

後述する路線バスパックの活用においても、必要となる環境整備であった。

なお、八戸では、路線バスの上限運賃政策の導入（従来の欠損補助から、多くの住民の便益向上につながる運賃への転換）などの取り組みも進めてきた。

これにより、減少傾向にあったバスの利用者が、上限運賃政策が導入された平成 23 年度以降、路線バス利用者（輸送人員）は、消費増税のあった平成 26 年度までの間ではあるが、増加傾向に転換するとともに、運送収入もおおむね下げ止まった。上限運賃の設定は、旅行者の観点からも、最大費用が事前に把握できることから有益である。

□路線バスパック

八戸市では、利用者の利便性向上の取り組みと並行して、新たな需要創造の取り組みも進められてきた。路線バスパックは、市民を主なターゲットに、路線バスを活用した余暇の過ごし方（＝おでかけ）の提案を通じて、通勤・通学等の日常利用以外のバス利用の促進を図ることを目的とした取組である。

バス乗車券と施設入場券等がセットになった企画乗車券を、交通事業者、沿線施設等と連携して企画・商品化したものであり、交通事業者（バス利用増）、提携施設（入館者等増）、利用者（お得に楽しむ）の 3 者がそれぞれメリットを感じられる仕組みづくりを念頭に制度設計されており、市民だけでなく、観光客の二次交通手段としても活用されている。

現在は、八戸駅と中心市街地を起点に、2 時間～半日で楽しめるコースが 10 コース設定されている。



バスパック造成に関しては、様々な工夫がされている。

実施方法については、対象地域、対象施設に応じてチケット方式（事前購入方式）と、クーポン方式（バス降車時に運転手に申し出て、提携施設の割引が受けられるクーポンを受け取る）の2種類があり、フレキシブルな制度設計となっている。

また、持続可能な仕組みとするため、バス運賃、施設利用料等の割引部分には行政からの補助は入っていない。自治体や交通事業者が商品企画が出来れば、チケット等の印刷費のみで事業実施が可能となっている。

これらの取り組みにより、路線バスの利用促進にとどまらず、目的地での旅行者のバスの待ち時間や、主目的施設利用前後に周辺施設を散策することにより、提携施設以外にも誘客効果が波及することで、地域活性化に繋がっている。



□八戸まちぐる定額観光タクシー『八戸まちタク』

着地型旅行商品の開発が進められている八戸市周辺では、観光施設は広域に分散する一方、宿泊は市街地に偏在するという課題がある。このような状況の中、時間的制約が多い旅行者にも対応できるようにタクシー会社と調整し、八戸まちぐる定額観光タクシー『八戸まちタク』の商品造成が図られた。

通常の観光タクシーは、1台のタクシーを使って、数時間等の限られた時間内でガイド付きで観光施設を巡る形式が多いが、この定額観光タクシーは、チケットを使用して通常の利用のように3回タクシーを利用できる定額観光チケットである。

時間の制限がないので、市内周辺を三分割したエリア内の決められた施設の行きたい場所に自由に行くことが出来るとともに、複数人でまとめて利用すれば大変お得なチケットになっている。

八戸市周辺のように観光施設が、点在している地域において、タクシーを使って効率的に観光してもらうためにと考え出された商品であるが、旅行者目線で考えても、タクシー料金が乗車前から分かっていると同時に、通常の時間制の観光タクシーと異なり、観光施設でじっくり自分のペースで観光できることから、非常に使い勝手の良い商品となっており、八戸観光のたびにこのチケットを利用するリピーターも増加している。



エリア紹介

A エリア **7,500円**
【対応施設】はっち(中心街)、八戸駅、榊引八幡宮、博物館、陸奥湊、八食センター、是川縄文館

B エリア **7,500円**
【対応施設】はっち(中心街)、陸奥湊、蕪島、葦毛崎展望台、白浜、種差海岸(芝生地)、是川縄文館

C エリア **10,500円**
【対応施設】はっち(中心街)、八戸駅、榊引八幡宮、博物館、陸奥湊、八食センター、是川縄文館、蕪島、葦毛崎展望台、白浜、種差海岸(芝生地)、八戸キャニオン

D エリア **14,500円**
【対応施設】はっち(中心街)、八戸駅、榊引八幡宮、博物館、陸奥湊、八食センター、是川縄文館、蕪島、葦毛崎展望台、白浜、種差海岸(芝生地)、八戸キャニオン、道の駅なんごう、朝もやの館、山の楽校

□ 「朝市」「朝ぶろ」乗合タクシー『八戸あさぐる』

八戸の観光資源である「朝市」「温泉銭湯」を効率的に回れるように企画された乗合タクシーの観光商品。乗合なので、対応できる事業者が限定されるという運用上の課題はあるが、ビジネスでの旅行者が多く、「朝の観光資源」を有する八戸にとって、ビジネス客が地域の特徴ある観光資源を効率的に回れる本商品は、「朝の観光資源」を有する他の観光地にも参考になる取組であると考えられる。



中心街ホテル発着 ▶ **3,100円**
タクシー料金 + 銭湯入浴券

八戸駅前ホテル発着 ▶ **4,300円**
タクシー料金 + 銭湯入浴券

※上記料金には朝市での飲食代金は含まれておりません。

<まとめ>

八戸市では、公共交通の利用状況、観光客の状況を踏まえつつ、地域の観光資源をより活かすために、既存の公共交通網（バス、タクシー等）を有効活用して、様々な取り組みが行われている。

地域住民と旅行者という双方の利用者の利便性向上に資するこれらの取り組みは、「住んでよし、訪れてよしの観光地域づくり」の理念に通じるものであり、特に2次交通の充実・確保に関しては、この点を意識して取り組みを進めることが必要である。

その点、特に注目したいのは、取り組みを進めるにあたって、行政（八戸市）が積極的に関与する部分（共通バス停整備への補助など）がある一方、路線バスパックの造成に際して行政の補助は投じないなど、持続的な運営の構築に向けた調整が行われている部分がある点である。

事業者による運行のみでは、利用者の利便性が十分に確保されない場合、やはり行政が積極的に関与することが必要であるが、その際に、行政の支援は必要な範囲に絞り込んでいくことが望ましく、旅行者の2次交通の充実・確保に向けても、行政と事業者の双方が協力しつつ、持続的な運営の確保、利便性の向上に向けて歩調を合わせて取り組んでいくことが重要である。

（取材：2018年1月）

資料出典：

八戸公共交通ポータルサイト

(https://www.city.hachinohe.aomori.jp/public_transport/)

八戸観光コンベンション協会 HP (<http://www.hachinohe-cb.jp/>)